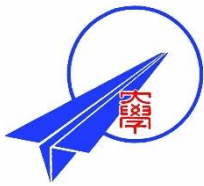




38期生まるわ会にエールを
トマター

滋賀県レイカディア大学米原校サポートの会通信 第18号 <学生募集特集>



滋賀県レイカディア大学 学生募集

令和2年10月入学 入学願書受付：令和2年6月1日～8月11日

入学後の生活に変化のきざしが

定年を迎えて、初めてその先の人生に新たな思いを抱いた人は多いはず。レイカディア大学に入学してこんな心の変化に気づきました。

- 畑仕事に精出し、野菜作りが上手くなった
- 庭造りや木を植えて庭仕事が楽しくなった
- 地域の景観を良くして周りから感謝された
- 人とのつながりができて、こころのよりどころになっている——

『★自然対象の活動からその地の歴史を知りイベント開催活動をしている

★琵琶湖周辺の歴史に触れることが楽しくなってNPOに仲間入りしガイドを始めた

★再生民家、寺、山野の保全活動で仲間の支援を得て、人とのつながりを強く感じた』——

- 地元の歴史をもっと広めたい
 - ボランティア活動に参加するようになった
 - 全員メール通信ができるようになった。更に多くの人がパワーポイント、ワードを使えるようになった（全員が必要としません）
- 等々、満足感を覚え、やり遂げ感が毎日を豊かにしています。

こんな人に入学をおすすめ

- 今までの人生に感謝して社会に恩返ししたい
 - 人との交流を求めたい
 - 活動したいが仲間がほしい
 - 故郷に戻ってきた人、他所から移住してきた人で地元にとけこめない
 - 園芸、歴史、健康づくりの各分野のボランティア活動へつながる手法を学びたい
 - 園芸、歴史、健康づくりの専門知識と実技を身に付けたい
 - 一般教養、知識を学び、視野を広めたい
 - 今の無為な日々からサヨナラしたい
- まだまだ人生はこれから、生活のヒントが見つかります。



31期卒の富永洋司さんの賤ヶ岳合戦のガイド場面

レイカディア大学の設立趣旨

人生百年を健康で意欲をもって過ごすために、滋賀県が提唱した建学精神。高齢者が積極的に意欲をもって社会へ参画し、地域の担い手となるべく、知識と教養と技術を習得する学校として始まり、広く学生を受け入れている。

北近江文化学科 地域の歴史や文化を訪ねる！

れいか ていや
麗花さんと貞也さんの

「レイカディア大学」ってナニ？

麗花 「あんなあ、友達福永さん、退職してからレイカディア大学いこうに行ってるんやて」

貞也 「そのレイカディア大学って、どこにあるのや？」

麗花 「米原の文化産業交流会館にあるんやて」

貞也 「へー、毎日、米原までかよってはるんか？」

麗花 「それがな、講義は週に1～2度ぐらいあって、朝10時から午後3時までやて」

貞也 「それで、何を勉強してはるのや？」

麗花 「うん、『北近江文化学科』いうて、滋賀県の歴史や文化を勉強してはるのやて」

貞也 「滋賀県の歴史や文化か。おもしろそうやなあ」

麗花 「高宮や鳥居本の宿場を巡って宿場の歴史や様子や、小谷城や安土城・彦根城へ登って城づくりの工夫や歴史について先生に教えてもらうそうやで。それから、滋賀県に関係する小説を読んだり、紙芝居を作ったりするんやて」

貞也 「へーえ、退職しても充実した毎日を過ごしてはるんやね」

麗花 「それにな、一緒のクラスになった人との交流が楽しいそうや。いろんな地域から違う仕事をしてた人が集まっているので、今までの肩書はずして新しい友だちができて新鮮で楽しいそうやで」

貞也 「新しい友だちかあ。ワクワクするなあ」

麗花 「今年の募集は6月からで、授業は10月から始まるそうやで。一緒に入学せえへんか？『園芸学科』と『健康づくり学科』もあるそうやで」

貞也 「そうやな、若返って学生生活も悪くないなあ。チャレンジしようか」



【小谷城に登り、現地で中井均先生(左端)から教えていただく】

「宿場を学ぶ」「城郭探訪」

やはり、現地で学ぶことがいちばん大切

レイカディア大学北近江文化学科では、滋賀県埋蔵文化財センターや彦根城博物館に勤務し、現在は「柏原宿歴史館」の館長の谷口徹先生を講師に迎え、「中山道に行く」というテーマで、高宮宿・鳥居本宿・番場宿・醒井宿・柏原宿の五つの宿場を巡りました。初めに、1時間ほど、その宿の成り立ちや史跡について講義を受け、「見附」といわれる宿場の入り口から、「本陣跡」「脇本陣」「問屋」や、「うだつ」「袖壁」「虫籠窓」などがある建物を見ながら楽しく学びました。

また、城郭研究のスペシャリストで城郭に関する多くの著書を執筆している滋賀県立大学教授の中井均先生の案内で、滋賀県の代表的な城「小谷城」「安土城」「彦根城」に登り、それぞれの城郭の特徴や歴史について学びました。

世界でひとつだけの紙芝居をつくる！！

坂早百合先生の「紙芝居の作成」の講座では、各自が好みの題材を選び、自分で絵を描き台詞を考えて紙芝居を作りました。苦労もありましたが、その分、喜びもひとしおで、卒業してからは地域でのボランティア活動で上演しています。



【谷口徹先生(右から2人目)から高宮宿について教えていただく】



【福祉施設を訪問して紙芝居を上演する卒業生】

なぜ入学したのですか？

私たちは、60歳を超えてからレイカディア大学（米原校）に入学し、2年間の学生生活を終えました。今、振り返ると、様々な経験や学習体験は、これからの人生を豊かにしてくれたと思っています。もし入学していなかったら、今の自分はずいぶんさみしいことになっていたかもしれません。「仕事も子育ても一段落し、自分の時間を有効に使うために入学した女性」「人生100歳を目指して健康でいたい、後半の人生は仲間をつくり交流の幅を広げたいと入学した男性」と、入学した動機は様々です。健康づくり学科は、他の学科と違い、伝統的に女性陣のパワーに満ち溢れています。決して男性が萎縮しているわけではありません。ちょうどよいバランスで、卒業後の活動が継続しているのは、その団結力のゆえんです。



委員会活動・課題学習の体験とよろこび

レイカディア大学では、学習や学生生活を分担補助する委員会活動を、各自ひとつ受け持ちます。正副学科長、会計の他に文化・体育・情報・地域活動・課題学習担当があります。大学祭やニュースポーツ大会・ホームページ作成・ボランティア活動など、学年を超えた各委員会が分担し、それぞれが主催して完結させます。苦労の中に喜びを味わうこうした体験はたいへん貴重です。

また、レイカディア大学で特筆すべきは、課題学習です。これは、教室での学習とは異なり自分たちで学習テーマを決め、言わば卒業課題として手分けして課題案件を調べ、グループで取り組みます。そして、体験したものを一つの報告書としてまとめ、大学祭で発表するのです。これをまとめ上げる過程で、クラスのチーム力が一層高まり、一人ではできないことでも、仲間の力で実践でき、これが自信となり、喜びにつながります。ここでの貴重な体験は、卒業後のボランティア活動にもつながり、地域の方々にもたいへん喜ばれています。



必修講座・選択講座てな一に？

レイカディア大学での講義は、週に1回～2回あります。必修講座と選択講座がありますが、必修講座は全学科1、2年生が一緒に受講します。幅広い分野の初めて触れる学習は、脳への刺激となり、大いに活性化し、講義の最後には、質問時間もあってより理解が深まります。ここでラジオ体操第3を初めて教わり、大学祭の余興寸劇に取り入れ、披露したことも懐かしく思い出されます。

選択講座では、座学と実技がありますが、健康維持・増進に関する多くの最新情報が得られ、生活習慣の見直しにつながりました。ストレッチ体操、サロン活動のワザ、調理実習、介護、遊びの小道具、スポーツ・ゲームなど、これからも地域の仲間と元気に生活していく上でのノウハウやポイントを、専門の先生方から分かりやすく教わることができました。



楽しい交流・懇親会！

レイカディア大学では、学科・学年・草津校・OBなどクラスの枠を超える「城郭探訪会」をはじめとする同好クラブがあります。また、クラス会や学年会・学科交流会・委員会など、こうしたつながりの会は懇親会を開くのが常で、左党の人はもちろんほとんどの出席が得られ、そこでは絆という一生の宝物を授かりました。

卒業後も、クラスメイトとの交流やボランティア活動・ウォーキング・グラウンドゴルフなどを続け、ますます健康長寿を目指し、まさに100歳人生のノウハウ満載の大学です。

なぜ入学したのですか？

入学の動機は、庭木の剪定、野菜果樹栽培、草花など園芸に関心があったからという人が多いのですが、「レイ大先輩からの勧め」「集落の郷づくりのために」「農業経営を任されて」といった地域の活性化をめざして入学する人も少なくありません。なかには、「生前、父から『時間の余裕ができたならレイ大へいくとええわ。レイ大はええぞ』と聞かされていたから」入学した親子二代にわたる人もいます。



松原先生の果物の糖度チェック講座



授業の魅力は何ですか？

必修講座は、3学科共通で幅広い分野の授業があります。そのため「自分の振り返りや将来について考える参考になった」「ボランティア精神、社会貢献など生き方に方向性を得た」「地元の文化、伝統の再認識になった」「健康長寿ライフを意識するようになった」という感想が寄せられました。視野を広げ、より良く生きるためのヒントがたくさん得られます。

また、選択講座は、園芸に関するもので、剪定、野菜・果樹栽培、花の寄せ植え、盆栽と幅広く基本とコツを学びます。「2年生になると県内各地へ剪定野外実習があるので面白くなる」「剪定は実作業をとまなうので身につく」「野菜・果樹は座学が多いが、経験豊富な仲間から細かなことを教えてもらった」などの声が多くあります。なかには「道具類をもつことで、普段は読まなかった教科書も活用し役立ったのが嬉しい」との声もあります。

講師の先生の魅力は？

「北村正隆先生には、剪定の基本とコツ。どう仕上げたいのか、2年後、3年後の姿を考えてバランスよく仕上げること」「松原治夫先生には、野菜や果樹栽培に熱心に取り組むことで若返りと元気がもらえること」「大辻敏雄先生には、『育てる心』と盆栽の魅力を学んだ」という数々の卒業生のコメントは貴重です。そして何より嬉しいのは、講師陣のどの先生からも園芸を愛する気持ちが伝わってくることです。

課題学習・現地研修・地域活動の魅力は？

授業や活動についての感想として共通していたのは、「興味深く学習でき、毎月楽しみであった」「仲間意識が自分を高めてくれた。周りにこんな仲間がいたのか。自分は井の中の蛙であった」という、感動と喜び、そして楽しい仲間ができたことへの感謝の内容でした。

初めはあまり積極的でなくても、「地域の人から感謝され、喜んでもらえる存在」や「地域ならではの取組」に気付き、仲間と一緒に苦労し最後までやり遂げることで達成感・連帯感そして仲間意識が育まれます。また、課題学習で取り組んだ寺院や施設などを卒業後もそのまま活躍の場とするグループも少なくありません。県内各地で活躍中です！



身近にある魅力に気づきます！

園芸について学ぶと、散歩や旅行をしていても、手入れの行き届いた庭、畑の野菜に思わず足をとめて見入るようになったり、また近くの山をハイキングすると何の木だろうかと気になります。整備された生垣を見るとその縄の結び方にも視線を向けるようになります。これまで見逃していた身近な魅力に気づくようになるのです。近所に気になる果樹を育てている家があれば、レイ大園芸学科卒の人かもしれません！

レイカディア大学米原校の先生に聞きました

園芸学科 講師 北村 正隆先生に聞く

アメリカで和風庭園の作庭を終えて帰国されたところへ話を聞きに行きました。

「レイカディア大学（以下「レイ大」）では日本庭園を鑑賞する講座があり、庭園美から和の精神を理解します。しかも、恐れ多くも文化財としての価値ある庭園の樹木の剪定をします。ところが、レイ大生は素直な人ばかりで、初心の横並びで剪定を始めるので無茶をしないし、仕上がりは上々です。

レイ大生を見ていると学ぶ意欲を感じます。60歳以上だから入学できる機会を得て、学べる良さ、人とのつきあいの良さを感じ取り、これが生活の上で有意義であると、理解することがリタイア後の人

生を送る上で大切です。

体を動かしてボランティアに参加して知り合った人とのつながりは一生の付き合いになり、自分を生き生きとしてくれます。その点が入学してみないと分からないのが、辛いところですね」



【サザンカがすっきりと仕上がりました】

健康づくり学科 講師 多胡 陽介先生に聞く

健康と運動（理論）担当の聖泉大学准教授。

健康づくり学科を目指している方に対するメッセージです。



健康づくりは、人生をより良く生きるための永遠のテーマだと思います。また、滋賀県では“健康しが”を進めており、地域から求められる健康づくりの需要もますます高くなっています。

レイカディア大学健康づくり学科の皆さんは、とても仲良く、楽しく、前向きに活動しています。

ぜひレイカディア大学に入学して、様々な魅力あふれる授業を通じ、積極的な学びや実践を行い、自身の健康づくりと地域の健康づくりに貢献していきましょう。



北近江文化学科「城郭探訪」 講師 中井 均先生に聞く

北近江文化学科には「城郭探訪」という科目があります。この科目の講師である中井均先生（滋賀県立大学教授）に話を聞きました。

――城の魅力について

お教えください――

「城からその地域の歴史や特徴が分かるのが魅力です。例えば、甲賀にある全国的にも珍しい30～50m四方の城郭群や、また、彦根城の大きな堀切や石垣を配した縄張りなどを見るとその時代の緊張感や勢力関係が分かってきます」

――滋賀県の城についてお教えください――

「滋賀県は、戦国時代・織田豊臣時代・政治が安定した江戸時代を代表する魅力的な城がそろっています。小谷城は、下剋上の戦国時代に実力で京極氏にとってかわった浅井氏の築いた城で、実際に戦闘が



あった城として興味のある城です。また、安土城は全国で初めて石垣を設けた城で、織田信長が自分の存在を全国的にアピールした城でもあります。そして、彦根城は軍事的に緊張関係にあった時代に実践モードの縄張りが行われ、幕府が各地の大名に命じて天下普請で作られた城です。ふたつの大きな堀切・登り石垣といった魅力的な見どころでいっぱいです」

――レイカディア大学に入ろうと

思っている方に一言、お声がけをください――

「仲間を見つけ、人づきあいを楽しんでください。また、近江ならではの3つの時代の代表的な城を、フィールドワーク・現地で学ぶ楽しさ、新しいものを見つける楽しさを共有したいと思います。私はその案内人として、城や歴史を見る視点を紹介しますので、城の魅力を再発見してください。

魅力的な城がそろっている北近江ならではのワクワク感を私と一緒に楽しんでみませんか」

卒業生は活躍しています

「十人十色の会」北近江文化学科 39 期生

「十人十色の会」というのは、レイカディア大学北近江文化学科 39 期卒業生 10 人で構成している会です。10 人がそれぞれの持ち味を生かし、全員がひとつになって、地域でボランティア活動をしたり、歴史や文化の足跡を巡り歩こうという組織です。



「十人十色カフェ in 四十九院」
で自作の紙芝居を上演し、皆
さんに楽しんでいただく

まず、「十人十色カフェ in○○○○」と名付け、各地域へ出かけ、自作の紙芝居や「近江街道双六」「近江街道カルタ」けん玉やお手玉などの昔の遊びをしたり、ギターに合わせてみんなで手遊びや懐かしい歌を



【上 近江国街道カルタ】
【左 近江国街道双六】

歌って楽しんでもらっています。

また、北国街道や北国脇往還・西近江路など県内の街道や県内外の史跡を巡り、見聞を広め会員の親睦を深めています。(TF)

【北陸研修旅行では今庄宿・丸岡城(右写真)・三国湊・北前船の館・疋田宿などを訪れました】



楽しみながら「三方よし」のボランティア

今回取材させていただく田井中庄典さん(31期生活科学科卒)は、10年以上同期の仲間と施設訪問を継続されています。今日まで継続して活動を続けられる源泉は何かを聞きました。



「ボランティア献求会(ケンキュウカイ)」は、当初8名でしたが、高齢化のため現在は男性1名、女性3名となりました。3年余り前までは、地元能登川園での、車いすの清掃整備、ダンスのリフォーム、衝立障子張り替え、夏祭り手伝いなど月1回の活動をして、平成28年に市社協表彰を受けました。その後、地元のグループホームに活動拠点を変え、紙芝居、手品、脳トレゲーム、懐かしの歌など入所者と楽しいひと時を過ごします。年末の餅つき、花見や他の施設合同の運動会では、車いす補助の手伝いもしています。ボランティア活動の後の昼食会で2カ月後の日程なども決め、仲間の共通目標を明らかにしています。同級会(22名:男5名、女17名)も年1~2回です。

また、公益社団法人「認知症の人と家族の会」滋賀県支部代表を務める31期生の小宮俊昭さんとともに、田井中さんも認知症介護の経験から、男性介護者の集いを結成して、介護者の悩みや心のケア、介護情報交換など、毎月精力的に活動しています。

こうした活動は、ストレスの多かった仕事を離れて、それまで味わえなかった仲間との共通課題対応の達成感を得、見返りを求めず、真心で接することの喜び、脳トレなどは自分のために楽しみながら続けていますとの、前向きな姿勢に私は感服しました。



あと5年ぐらいいは続けたい、と話す背景には、世間の有能な人に社会へ参画するよう示唆されていて、「仲間との出会いを早く得て、互いに視野を広める。楽しくボランティアしながら健康で長く付き合いたい。」とのメッセージも頂きました。私達もこうした先輩の背中を見て後に続きたいものです。(KM)

《編集後記》 新型コロナウイルス感染防止のため休校となる中、取材の厳しい局面も発生しました。講師や卒業生を含むレイ大関係者の皆様のネットワークの協力により発刊することができましたことにお礼を申し上げます。レイ大のネットワークは貴重です。しばらく、難しい状況が続くことも懸念されますが、今は、耐える力が試される時。“あせらず、あわてず、忍耐強く”を心がけたいと思います。(HK)

サポートの会通信 2020年(令和2年)5月15日第18号

発行:滋賀県レイカディア大学(☎0749-52-5110)

米原校サポートの会(広報・情報室)

- 米原市下多良 2-137
(県立文化産業交流会館内)
- ホームページ:
<http://lacamaibara.com>

